

氏名	姫 井 治 美
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 416 号
学位授与の日付	昭和 51 年 3 月 31 日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目	内視鏡的逆行性胆膵管造影法による胆道十二指腸瘻の 臨床的研究
論文審査委員	教授 大藤 眞 教授 田中早苗 教授 山本道夫

学位論文内容の要旨

著者は十二指腸内視鏡検査及び内視鏡的逆行性胆膵管造影法により、この 5 年間に 33 例の胆石によると思われる胆道十二指腸瘻を発見し、その診断、瘻孔の自然経過、予後、治療について考察した。頻度は胆石症 246 例中 13 % を占め、従来の値よりはるかに高率である理由は上記検査法の診断能の良さによると考える。33 例の内、総胆管十二指腸瘻が、胆嚢十二指腸瘻に比べて多いのも特徴であり、従来は前者が多く見落されていた可能性がある。前者を瘻孔開口部の位置により I、II 及び III 型に分けた。各型の違いは必ずしも結石の大小のみによらず、総胆管末端部の状態も関与すると考える。瘻孔が自然閉鎖するかどうかは瘻孔形成後 4～14 週までに決まり、総胆管末端部狭窄像があると瘻孔は開存すると考える。従って I 型では多くは自然閉鎖し、III 型では多くは開存し、II 型では自然閉鎖と開存が半々であろう。予後は残存結石像があれば良くないが、ない例でもそのまに胆道炎が見られ、型の違い・瘻孔の存在は予後に影響を与えないと考える。

治療は、残存結石像があれば除去手術を、なければ経過観察のみでよい。瘻孔に対しての外科的処置は必ずしも必要でないと考える。

論文審査の結果の要旨

本研究は内視鏡的逆行性胆膵管造影法による胆道十二指腸瘻の臨床的研究を行ったものであるが、従来十分確立されていなかった胆石と胆道十二指腸瘻の関係について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。